



『建築家としての片岡 安氏を知る①』

2回にわたり、今回と次回は「関西工学専修学校」の初代校長を務めた片岡 安氏が建築家として携わった建築物を紹介します。

1. 大阪市中央公会堂（大阪市北区）



【写真】現在の大阪市中央公会堂

水都大阪のシンボルともいえる**大阪市中央公会堂**（注1）は、近代大阪を代表する建物です。赤レンガと白い花崗岩の鮮やかなコントラスト、アーチ状の屋根などから放たれる壮大な雰囲気、豪華な内装などが特徴で、ネオルネサンス様式の建物です。「常翔 History (No.3)」でもご紹介したとおり、北浜の相場師で、株式仲買人として成功した**岩本栄之助**が莫大な私財（当時の100万円）を公

会堂の建設資金として、大阪市に寄付したことにはじまります。

公会堂の設計はコンペとなり、当時の建築界の大御所である辰野金吾が、**長野宇平次**（1867-1937）、**武田五一**（1872-1938）など、全国で活躍する建築家17名を指名し、13名が設計案を提出しました。その結果、最年少の**岡田信一郎**（1883-1932）の案が選ばれました。そして、岡田氏の原案をもとに辰野金吾、**片岡 安**（いずれも辰野片岡建築事務所）が実施設計を行いました。具体的には、装飾細部が幾何学的な形に変えられたほか、正面両側の屋根が3階壁面を兼ねた形に変更されるなど、建物の細部には辰野片岡建築事務所の修正案が加味されています。

1913（大正2）年に着工しましたが、第一次世界大戦の影響で資材の輸入が滞ることもあり、困難な状況下で工事が進められました。また、1916（大正5）年には、寄付者である岩本栄之助が株取引で失敗、39歳というの若さで自ら命を絶つ悲劇にも見舞われます。しかし、このような困難や悲劇を乗り越え、1918（大正7）年10月に竣工を迎えました。

以来、数多くの著名なアーティスト、文化人による音楽会、講演会などで市民に親しまれている大阪市中央公会堂。2002（平成14）年には、日本有数の公会堂建築物として西日本ではじめて、国の重要文化財に指定されました。

2. 旧大阪教育生命保険（大阪市中央区）

辰野片岡建築事務所が設計した赤レンガと白い花崗岩を用いた色鮮やかな様式の建物です。完成当時は玄関の上に尖塔がそびえていて、円筒形の玄関が張り出した造りでした。屋根やドーマー窓の装飾など、細部まで美しく装飾されているのも特徴です。1912（大正元）年に完成したこの建物は、前述の大阪市中央公会堂建設の着工年と近いため、両者には共通点も見られます。



【写真】現在は結婚式場（オペラドメーン高麗橋）となっている

現在、建物は改装され結婚式場となっていますが、この界限には浪花協会、高麗橋野村ビルなどもあり古き良き時代が感じられる街並みとなっています。

3. 芦屋仏教会館（芦屋市）



伊藤長兵衛（1868-1941、注2）が芦屋に設立した崇信会（現・公益財団法人芦屋仏教会館）の活動拠点として建設された会館で、設計者は片岡安。

1927（昭和2）年に完成したこの建物の玄関上部のステンドグラスには蓮の花がデザインされているほか、花頭窓のような和の意匠とインド・イスラム様式の装飾要素を融合させて、ファザード（建物正面）に取り入れているのが特徴です。また、当時既に免震工法で設計施工されています。

（注1）大宮キャンパスの正門「片岡安メモリアルゲート」は、大阪市中央公会堂を模しており、学園創立70周年記念事業の一環として1992（平成4）年に完成した。

（注2）丸紅商店（現・丸紅）の初代社長。伊藤忠兵衛（伊藤忠・丸紅創業者）は長兵衛の弟にあたる。



7月1日（金）～31日（日）まで、常翔歴史館では学園各学校のラグビー部のあゆみを取り上げた企画展・特別講演会を開催します。

常設展示室で開催する企画展「学園ラグビーの軌跡をたどって」では、強豪校として全国に知られる常翔高、常翔啓光高のほか、大工大、摂南大の各ラグビー部の栄光や軌跡などを紹介。

7月30日（土）には「常翔学園と日本のラグビー、その将来」をテーマに、京都産業大学ラグビー部ヘッドコーチ元木由記雄氏（工大高OB、元ラグビー日本代表）を講師に招き特別講演会を開催します。

詳細はホームページ（<http://www.josho.ac.jp/ayumi/>）をご覧ください。

【参考文献】①日本近代建築大全【西日本編】（監修 米山 勇、撮影 伊藤隆之、講談社）、

②西洋館 明治・大正の建築散歩（中村哲夫 写真・文、淡交社）

③近代建築ガイドブック（著者 石田潤一郎+沢田清+柴田正己+中川理+福田晴慶+山形政昭、発行者 河合全次郎、鹿島出版会）

④学園新報 第103号

2016.6.24